

松林分館主催事業

「心を元気にするセラピー講座」
さまざまな環境の影響でうけたストレスをセルフコントロールすることによってその原因を軽減する療法を学ぶ講座を2月・3月に開催し、5人の参加がありました。

「心を元気にするセラピー講座」に参加して

栗原 薫

今回「心を元気にするセラピー講座」の募集に興味津々で受講させていただき「五感」(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚)を使っていろいろなセラピーを体験した。毎回最初に最近「五感」を使って感じた事を発表し合いました。普段何気なく過ごしていた日々から少し五感を意識してみようと食事の支度一つとってもお鍋から聞こえてくる音も耳を澄ませて聴いているとコトコトであったりグツグツであったりそこから出てくる匂いをスーッと吸い込んでみると、「心」って幸せな気持ちになります。

利用サークル作品展のお知らせ

福生市切絵同好会
毎月第4水曜日に作品展をします。絵を書くのはちょっと苦手な方でも楽しめます。会員募集です。いっしょに楽しみませんか。年に1回4つの同好会が合同で作品展を開催しています。体験コーナーもありです。お待ちしております。



切り絵作品

「東京多摩切り絵同好会作品展」
日時 4月10日(土)4月15日(木)
場所 福生駅フチャラリー
問合せ 岡原 551・9155

松林通り音むかし 2

福生市文化財保護審議会会長 高崎 勇作

松林通りは、江戸時代の地図によると、市内を東西に走る道路のなかでは最も北側の道で、「村山道」と書かれたものや、「上サ(か)江戸道」と記したのものもある。「かさ」とは昔の土地言葉で上流部を意味する。この道を通って江戸を目指す人は、武蔵村山の残堀で青梅街道へ入り、現在のジャスコ武蔵村山の北側を通り、西武線の東大和駅前へ出た。松林通り江戸道を逆に西へ向うと、玉川上水の宮本橋で松林の名称は終るが、橋の先は宮通りと呼ばれる福生で唯一「宮」と名の付く土地である。ところがまったく宿場らしい面影はなく、夏場の洪水期に川留めに達した旅人が、川明けを待つ間の僅かの期間逗留できる部屋を備えた農家の「二軒あつた程度」と思われる。宮本橋は江戸時代には宝蔵院橋と呼ばれていたが、これは上水建設時堀筋に当たった寺院から付けられた名前である。寺は奥多摩街道の北側に移築されて明治期まで存続したが、明治初期に吹き荒れた廃仏毀釈の風潮のなかで廃寺となり、住職は還俗して宮本豊祐と名乗り、あたりにできた村社神明社の神官となつてしまった。いらい橋の名前も宮本橋と名を



雪の松林通り (松林分館前)

変えた。この神明社の崖下からは長澤集落の地名の元となった大量の湧水が流れ出ていた。もともとこの地は築師屋の境内だったので望川と呼ばれていた。神明社に隣接する福生消防署から第一小学校にかけての広い地域一帯が、市内最大の縄文遺跡埋蔵域で、望川の湧水を中心に形成された集落群と思われる。神明社の坂を上って、今は一小通りと呼ばれている青梅街道(福生羽村地域での呼び名)を横切り、青梅線を越えた辺りで江戸道は二又にわかれ、左方が箱根街道と呼ばれた道で、福生病院の前身、鶴(まゆ)検査所の前を通り瑞穂町や埼玉県屈沼の穀物市場へ通じる重要な道であったが、現在は区画変更によって普通道の一部のことで消滅しかけていく。(※、松林通り)の名前は、登記所の移転に伴い道路の名前を一般公募し決定しました。

公民館運営審議会の一年を振り返る

公運審委員 八木五郎

昨年の4月、前任の吉岡委員から松林分館選出委員として引継ぎました。吉岡さんは二期4年を務め審議会での信頼も厚く精力的に活動されたのであります。公運審は社会教育法の規定により、福生市公民館条例の定めにより、現在十人が任に当たっています。活動内容は「公民館長の諮問に応じ、各種事業の企画実施につき調査審議をする」と定義されています。随分昔のことですが、教職課程受講の際に社会教育についても学んだ記憶がありますが「今はむかし」で遠い過去のものとなっております。

活動内容も理解せず言われるがままに引き受けた目には、教育委員会からの委嘱状を目にして責任の重大さを痛感しております。審議会は月一度定例会を開催し、館長より各館の事業報告、教育委員会報告等を受け、必要に応じて委員により意見交換を行います。公運審の重要事項として館長諮問への答申策定作業があります。現在、平成23・24年度の諮問「公民館の情報提供の在り方について」の命題を受け、答申策定作業を進めております。また、外部活動として東京都公民館連絡協議会(都公運)の委員部会ならびに都公研大会での発表や関東



公民館運営審議会は、毎月1回、定例会を開催しています。

甲信越静公民館研究大会等へ参加しており、公民館の抱える問題・課題を取り組み方、求められる役割などを意見交換することで新たな公民館の在り方を模索しております。今年度の大会、研究会ではとりわけ、一年前の未曾有の大震災にあって、帰宅困難者の受け入れや対応に迫られた事例報告がありました。新たな公民館の役割として研究会では関連な意見がなされた。要請を受けて間もなく一年が経過します。まだまだよちよち歩きで各委員には迷惑を掛けておりますが、更に努力を重ね交流会の皆様、松林分館職員の皆様への一助となればと考えております。最後に先日の都公運研究会委員部会で環境課伊東課長(前公民館館長)による主催事業の講演と卓越した内容に深く感銘いたしました。これからご指導いただければ幸いです。紙面をお借りして御礼申し上げます。 陶芸サークル「あじさい」所属

松林分館主催事業

歴史講座「玉川上水入門」

市内を流れる国の史跡である玉川上水の講座です。講師は「松林通り音むかし」を執筆していただいた高崎勇作氏です。学習会と見学会を11月に開催しました。

玉川上水見学会に参加して

長崎 幸雄

福生市には通算十数年住んでおりますが、玉川上水は余りに身近過ぎてというか風景に溶け込みすぎて正直関心がありませんでした。たまたま市広報で松林分館主催の玉川上水歩き会開催を目にし、参加しましたところ熊川分水等を含めて歴史的に奥深いものを感じた次第です。最も知名度の高いのは熊川にある失敗した上水掘削・水噴土ではないかとありますが、その古文書にも残されている掘り替えの場所などは私の新発見でした。

普段何気なく通り過ぎてしまふ場所でもこのような会に参加する事ができ、愛情も増している今日この頃です。これからも歴史探訪と健康増進を兼ねて積極的に参加し心身に栄養補給をしようと考えているところです。(写真 長崎 幸雄氏)



保育室を利用して

こんにちは、保育サークル「MUSASHI-NO2008」の河西です。松林分館の保育室を利用して2年半になります。保育室は窓が大きいので明るく、保育サークルのみならず「だれでもなんでも展」のときに作成した壁面飾りがあり、とてもかわいらしく優しい雰囲気になっていきます。ベビーベッドや子ども用のイスも完備しているので、小さな子どもがいても過ごしやすいです。私たちのサークルは、1歳から3歳の子どもたちがいますが、ブロック・おもちゃ・車・絵本・ぬいぐるみなど、この年齢の子どもたちでも楽しめるおもちゃがたくさんあり、いつも夢中になって遊んでいます。



(写真 河西さん親子)

また、保育室から庭へ出られるため、天気の良い日は外を走り回ったり、大好きな砂遊びをしたりして元気がいっぱい身体を動かして遊んでいます。夏にはプールを用意し水遊びを楽しみました。保育室から庭で遊ぶ子もたちの様子を見る事ができるので、安心して遊ばせることができます。ぜひ一度、保育室を利用してみてください。